

宮城県における子育て支援の実態（４）

— 幼稚園での地域子育て支援活動の問題点と課題 —

東 義也・石田 一彦・佐藤 陽子・杉山 弘子

以前、筆者らは宮城県内の全幼稚園317か所を対象に、2003年度の地域子育て支援活動の実施状況と課題について質問紙調査を行った。質問紙の回収率は61.8%であった。今回は、この質問紙調査の自由記述の部分のデータ集計と分析結果をまとめ考察した。支援活動をしている園の中で、もっとも多く記述されていた問題は、担当者や場所など条件面に関することであることが分かった。所在地別、公私立別に分けて比較したとき、私立幼稚園では内容の組み立てや充実度に関心が払われており、なんとか継続・充実させていこうとする意図が見られた。支援活動を実施していない園も含め、全ての園に対して、幼稚園での地域子育て支援活動についての意見については、現在活動している園は、困難さをかかえながらも、好評を得ている内容もあることが分かった。実施するに当たっての条件が整っていけば、工夫された支援活動が展開されるだろう。子育て支援センターとの連携・協力も伴えばさらにきめ細かい支援が期待される。

キーワード：幼稚園、地域子育て支援、子育て支援センター

<問 題>

日本の少子化は進む一方である。町や村のあちらこちらで子ども同士が群れて遊ぶ光景は、もう二度と見られないかのようである。遊ぶ場所や時間の少ないことも原因の一つではあるだろう。子どもを巡る事件や事故も後を絶たない。したがって、子どもたちを産み育てようとする母親たちの不安感が大きいのは当然である。人類のなしてきた育児という大切な営みが、こんなに難しい時代も珍しいのではないだろうか。

現在、幼児期の子どもたちが多く集まって遊ぶ場所としては、主として幼稚園や保育園である。そして、ここが拠点となって在園児に限らず地域の全ての親子を視野に入れた子育て支援が期待され、求められるようになってきた。「幼稚園教育要領」にも、小学校との連携・交流とか地域に開放された運営、そして、地域の実態や保護者の要請に応えるようにと明示されている。幼稚園にとっては、これまでの保育実践だけでも大変である上に、さらに地域の実情や要望に応える努力が求められているのである。そして、実際に様々な取り組みがなされてきている。ただ、園の地域性や実情によって、その実施状況は様々である。

筆者らは宮城県内の全ての幼稚園を対象に、2003年度の地域子育て支援活動について質問紙調査を行った。その結果の内、実施状況と遊びの会及び育児講座の課題については、「宮城県における子育て支援の実態（２）」ですでに報告した通りである。

本稿では、前回分析の対象とされなかった「地域子育て支援活動を実施してみたの問題点と今後の課題」と「幼稚園での地域子育て支援活動についての意見」を自由記述で尋ねた結果を報告する。そして、これらの結果を検討し、今後の地域子育て支援の在り方について考察する

ことを本稿の目的とする。

<方 法>

1. 対象：宮城県内の全ての幼稚園317園を対象にした。内訳は、仙台市内119園（公立4園、私立115園）、仙台市外198園（公立119園、私立79園）である。
2. 時期：2004年2月末に配布し、3月に回収した。
3. 配布と回収の方法：いずれも郵送で行われた。
4. 質問紙の構成と分析の対象：

質問紙は次の8つの柱からなっている。

 - ①幼稚園の概要と地域子育て支援活動の実施の有無
 - ②地域子育て支援活動の実施形態
 - ③園内で実施している地域子育て支援活動の種類と形態
 - ④園外で実施している地域子育て支援活動の種類と形態
 - ⑤遊びの会の実施状況と課題
 - ⑥育児講座の実施状況と課題
 - ⑦地域子育て支援活動を実施してみたの問題点と今後の課題
 - ⑧幼稚園での地域子育て支援活動についての意見

なお、①で幼稚園名を尋ねているが、無記名でもかまわないとした。また、今回の分析の対象とするのは、⑦及び⑧である。

<結 果>

1. 回収率と地域子育て支援活動の実施状況

317園中196園から回答があった。回収率は61.8%である。所在地別に見た内訳は、仙台市内が58.8%、仙台市外は60.1%である（所在地無答7）。公私別では公立68.3%、私立57.7%である。

園児以外の地域の親子を対象とした子育て支援活動を実施しているかを尋ねたところ、回答のあった196園中107園（54.6%）で実施されていた。仙台市内の私立園では69.1%、仙台市外の私立園でも61.9%が実施していると回答している。仙台市外の公立園は42.9%であった。

2. 地域子育て支援活動を実施してみたの問題点と今後の課題

地域子育て支援活動を実施してみたの問題点及び課題を自由記述式で尋ねた。表1に示した通り、支援活動を実施している107園中56園から有効な回答があった。所在地別で見ると、仙台市内の私立47園中25園、仙台市外の公立33園中15園、仙台市外の私立26園中16園である。

表1 問題点・課題の回答状況

	支援実施園	有効回答園数
市内私立	47	25
市外公立	33	15
市外私立	26	16
無答	1	
計	107	56

以下、所在地別に支援活動を実施してみてもとの問題点と今後の課題について記述されたことを見ていこう。その際、記述の内容については、大きく次のように分類されたのでまずここに示そう。

- ①条件に関すること
- ②ねらい・内容に関すること
- ③方法に関すること
- ④参加者募集に関すること
- ⑤その他

なお、幼児教育センターあるいは子育て支援センターを持っているところと持っていないところを分けて、さらに分析することもできるが、センターのあるところは107園中18園（16.8%）と少ない。従って、ここではあえて分けて分析することはしないこととした。

1) 仙台市内の私立幼稚園での問題点と課題

仙台市内の私立幼稚園が記述している内容を分類し、表2に示した。なお、1つの園が複数の内容を記述している場合には、それぞれのカテゴリーでカウントされている。

表2 仙台市内の私立幼稚園であげられている問題点と課題

カテゴリー		主 な 内 容	園数
条 件	担当者	職員の就業問題に関わる／加重的負担がある／力量不足である／専任職員・ボランティアが必要である	6
	体制不備	ニーズに応えきれない／希望者多数で対応できない／実施体制に課題がある／回数を増やしたい	5
	場所	専用スペースがない	2
	費用	費用の問題がある	1
ね ら い ・ 内 容	内容組立・充実	親側のニーズとこちらのねらいにずれがある／内容の組み立てが難しい／内容をどう充実させたらよいか／年間計画が必要である	7
	参加姿勢	親の参加態度に問題がある（親たちの関係固定化、親同士の交流が主）	3
	在園児交流	在園児との関わりをどうしたらよいか	1
方 法	相談事業	相談の機会を増やしたらいいようだ	1
	父親	父親の関わりをどう取り入れるか	1
	日程	日程の設定がむずかしい	1
参加者募集	P R 方法	P R 方法がむずかしい	2
	参加者少ない	参加者が少ない／申込が少ない	2
	人数把握	参加人数変動	1
そ の 他	小中学生	小中学生の問題をどうしたらよいか（放課後対策）	1
	支援センター	地域にセンターが必要である	1

「条件」に関する記述を見ると、担当者の就業問題や加重的負担についてあげた園が6園ある。また、希望者の多いことなどを受けて、ニーズに応えられない、回数を増やしたいなど、現在の体制の不備についてあげた園が5園あった。

「ねらい・内容」に関する記述では、内容の組み立てや充実度をあげた園が7園あった。親の参加姿勢については3園である。

「参加者募集」については、いかにP Rをして参加者を募るかが課題としてあげられている。

2) 仙台市外の公立幼稚園での問題点と課題

仙台市外の公立幼稚園が記述している内容を分類したのが表3である。

表3 仙台市外の公立幼稚園であげられている問題点と課題

カテゴリー		主 な 内 容	園数
条 件	担当者	担当する職員がいない／担当者が不足している／担当者の確保がむずかしい／職員への負担が加重である	5
	場所	教室が不足している／場所がない	2
	体制不備	体制がとれていない	1
	費用	費用が少ない	1
	行政	行政の支援が必要である	1
ねらい・内容	達成困難	目的が達成できない	1
	親交流	親同士の交流の場が必要である	1
	家族	家族関係の問題が見られる	1
方 法	情報	支援情報を収集する必要がある	1
参加者募集	関心、意識	参加者の関心をどのように喚起させるか／参加してほしい／子育ての意識が薄い	3
	P R 方法	来園日を自由にしてている	1
そ の 他	困難	現状でめいっぱい／公立の限界がある／保育所ですべきである	3
	安全管理	安全管理の問題がある	1

仙台市外の公立の幼稚園でも、「条件」に関する記述がもっとも多く10園ある。中でも担当者の不足・確保、また負担の加重についてあげた園が5園あった。反対に「ねらい・内容」に関する記述はそれほど多くなく、ニーズとねらいのずれについてや、内容の組み立て・充実度に関する記述は見られない。それよりも「参加者募集」や「その他」の欄にあるような困難さを感じている園の方が多いことが分かる。

3) 仙台市外の私立幼稚園での問題点と課題

仙台市外の私立幼稚園が記述している内容を分類したのが表4である。

表4 仙台市外の私立幼稚園であげられている問題点と課題

カテゴリー		主 な 内 容	園数
条 件	体制不備	人数が多い／体制がとれない／託児ができない	4
	場所	場所がない／場所が不足している	4
	費用	公的助成が必要である／費用がない	2
	担当者	職員のボランティアでやっている	1
ねらい・内容	内容組立・充実	内容をどのように組み立てるか／内容をどのように充実させるか	4
	参加姿勢	気軽な会話の場が必要である／参加者との意識のずれや差がある／自主活動に期待している	4
参加者募集	人数把握	参加人数に変動がある	2
	P R 方法	参加の促し方が難しい	1
そ の 他	安全管理	安全管理の問題がある	1
	少子化	子どもが少ない	1

市外の私立幼稚園でも、「条件」に関する記述は多い。中でも、体制不備と場所の問題をあげている園がそれぞれ4園あった。「ねらい・内容」に関する項目では、内容の組み立てや充実度についてと参加姿勢についてあげている園も、それぞれ4園である。問題を感じながらも、自分たちの園でなんとかしなければならないといった様子が窺える。その他の欄にも、別のところでやってほしいというような意見は見られない。

3. 幼稚園での地域子育て支援活動についての意見

今回のアンケート調査の最後の項目は、子育てをめぐる地域の状況や幼稚園の特性を生かした支援のあり方など、幼稚園での地域子育て支援活動についての意見である。実際に支援活動

をしているか、または、していないかに関わらず自由記述式で尋ねた。表５にある通り、回答のあった196園中105園になんらかの記述があった（支援活動の有無について無答の6園は除いた）。その内、現在支援活動をしている園は54園、していない園は51園である。そして、支援活動をしている園から47園、していない園から42園の計89園から有効な回答があった。

表５ 地域子育て支援についての意見状況

	記述あり	有効回答園数
支援活動あり	54	47
支援活動なし	51	42
計	105	89

なお、ここでは所在地別に分けて見ることはせず、子育て支援活動を実施している園としない園に分けて分析するに留めた。

1) 子育て支援活動をしている幼稚園の意見

園児以外の地域の親子を対象とした子育て支援をしている幼稚園から出された意見を、表6にまとめた。前述した通り、これは所在地別にも公私の別によっても分けていない意見である。

表6 支援活動をしている幼稚園の意見

カテゴリー	主 内 容	園数	
地域の状況	他の所でもやっている	町に支援センターがある／公民館や図書室で実施している	4
	親について	悩む親が増加している／親同士の交流が少ない	4
	少子化	子どもが減少している／子ども少なく関わりが少ない	2
	その他	安全な遊び場がない／幼稚園への評価が変化してきた	2
継続したいこと	内容	絵本の貸出／子育てが楽しいと感じられる支援／親同士の交流の場／遊びの場の企画／親子のふれあい	6
	連携	大学と一体となった支援／大学教員による電話育児相談	2
	その他	私立の良さをアピール	1
現状	困難	やりたいが手一杯である／園単独では困難である／現状のままでは困難である／現状の職員構成では難しい／体制がとれない／地域のニーズがつかめない／地域外の参加に悩んでいる／保育者の負担が大きい／他地域からの参加が難しい	10
	好評な内容	園庭で遊べるのが好評である／参加者が増加している／子どもの成長の過程がみられたという感想／年2回の実施だったが喜ばれた／親子で楽しむ企画が好評だった／異年齢とのかかわりを持ってたことが好評だった／保護者の間で友だちができた／子どもたちが楽しめている	8
	実際の内容	交流広場を実施している／在園児との交流をもちこんでいる／在園児とのふれあいの時間をもっている／毎月子育てはがきを発送している／利用が少ない	6
	工夫	親同士のかかわりができるような工夫	1
	別の所で	町が中心で実施している／幼保一体化施設で実施している	2
どうしたいか	講座	育児講座／外部の講師活用	2
	親子活動	親子での集団保育体験／親子の交流	2
	その他	地域の高齢者との交流／行事参加の回数を増やす／園外活動／企画を積極的に進める／気軽に相談できる体制／広く地域に呼びかけたい／どのような支援ができるか検討中／人材の養成／専任いれば開放したい／幼児中心の支援	10
その他の意見	批判	方針のない実施に問題を感じている／子どものための支援になっていない／親と一緒にやるという気持ちがいい／親の肩代わりではない	4
	行政	行政のバックアップが必要である／予算があれば可能である	2
	その他	必要性を痛感している／支援の研修の場が必要である／子どもが遊ぶ場が必要である／子育てが楽しくなる支援であるべき／若年層への支援が大切ではないか／地域の実情に合わせた支援活動であるべき／幼稚園を理解してもらう機会ではないか	8

「地域の状況」としては、幼稚園以外にも支援センターや公民館などでも支援活動が行われているという園が4園ある。また、悩む親が増加しているとか親同士の交流が少ないといった

親に関する意見も4園あった。

「継続したいこと」としては、絵本の貸出や遊び場の企画、親子または親同士の交流の場などの活動内容を継続したいという園が合わせて6園ある。大学との連携を継続したいという園も2園あった。

「現状」ということでは、10の園が主に担当者や体制の問題をあげて、困難という認識を持っていることが分かる。しかし、同時に好評な内容や実際の内容をあげている園もそれぞれ8園と6園ある。困難を感じながらも、支援活動をしている手ごたえや喜びも感じていることが窺える。

「今後どうしたいか」については、具体的に上げられているのは育児講座と親子活動で、それぞれ2園である。その他さまざまな意見が10園から出されている。可能性を探りながら、前向きに検討していることが分かるだろう。

「その他の意見」としては、支援活動の必要性を感じたり工夫してやりながらも、親や行政に対する批判や要望もあることが垣間見れる。

2) 子育て支援活動をしていない園の意見

園児以外の地域の親子を対象とした子育て支援をしていない幼稚園から出された意見については、表7にある通りである。

表7 支援活動をしていない幼稚園の意見

カテゴリー		主 内 容	園数
状 地 域 況 の	他の所でやっている	公民館や保健福祉課で実施している／支援センターを中心に実施・運営している／保育所で実施している	10
	その他	子育てについての価値観が多様である／地域が保育に協力的である／来園が少ない	3
し 継 たい 事 統	内容	園児との交流／行事参加を促す／児童館との交流／遊びを伝え広げる子育て支援	4
現 状	困難	地域ではしていない／小規模園なので難しい／職員数減少で難しい／費用がないので実施できていない／人員、物理的制約上実施は困難である／園児が多く無理である／在園児の家庭の支援が中心／在園児の相談実施／ゆとりがない／体制がとれない／力不足である／公立なのでやりにくい／幼稚園なのでしていない／子育て支援の情報がない／地域のニーズを把握しきれていない／危機管理問題が分からない	20
	実際	実施を検討中である／出前保育を実施している／入園予定者への行事参加を呼びかけている／在園児を通したPRをしている	4
し 今 たい 事 後	これから	開かれた幼稚園にしたい／公民館と連携してやりたい／講座参加を呼びかけたい／栽培や飼育／これから取り組みたい／今後考えていく	6
そ の 他 の 意 見	ネットワーク	ネットワークの中でできることを考える／ネットワーク化が必要である	2
	批判	子ども中心の支援が必要である／親子を切り離す政策の検討の方が大切である／幼稚園のあるべき姿・子育ての原点を把握すべき／子どもの気持ちに添った支援が大切	4
	その他	園の主体的支援が求められる／相談の場が必要である／総合的視野に立った連携が大切／地域ぐるみで取り組む必要がある／幼稚園にセンター的役割がある／条件が整わないとできない／危機管理の問題がある／補助があればやりたい／幼稚園での保育が支援ではないか	9

「地域の状況」について述べている13園の内10園が、町の子育て支援センターや公民館、保健福祉課などですでに子育て支援活動がなされていると述べている。

「継続したいこと」については、4つの園から意見が出されている。内容としては、園児との交流、児童館との交流など、交流活動が主である。

「現状」では、24園の内20園が現状のままでは困難であるという内容である。担当者や体制、

財政や情報、危機管理などの問題が原因としてあげられている。一方、検討中であるとか行事などへの参加の促しをしているという園も４園ある。

「今後したいこと」については、開かれた幼稚園にしたい、講座参加を呼びかけたい、公民館と連携してやりたいなど、６つの園が意見を出している。

「その他の意見」としては、いろいろな条件が整えば実施に踏み切りたいという考えのあることが窺える。その一方で、子ども中心の子どもの気持ちに添った支援が大切である、子育ての原点を把握すべきといった、現在なされている支援活動に対する批判的な意見も見られる。

支援活動を実施してみたの問題点と課題について回答のあった107園の内、有効回答数は81であった。また、支援活動の有無に関わらず地域子育て支援についての意見記述のあった105園の内、有効回答数は138であった（１つの園が複数の内容を記述している場合には、それぞれのカテゴリーでカウントされている）。いずれも、必ずしも数の多いデータではない。しかし、これらからある種の傾向は読み取れると思われる。上記の結果をふまえて、幼稚園における地域子育て支援の在り方について考察を進めていこう。

<考 察>

1. 地域子育て支援を実施してみたの問題点と課題の結果を巡って

仙台市内の私立幼稚園からは、担当者の不足と体制の不備といった「条件」整備の問題が多くあげられていた。体制不備という中には、希望者が多いためニーズに応えられない、回数を増やしたいという意向が読み取れる。つまり、体制不備という中には、担当者の問題も隠されていると言えるだろう。専用の場所がないことを問題点としてあげた園も２園あるが、これは必ずしも多い数ではない。であれば、支援活動を行う場所が必ずしもないというわけではないだろう。場所はあるけれども、場所よりも人の問題の方が大きいのである。このことが浮き彫りにされたのではないだろうか。幼稚園の場合、現職員で対応しているケースが多いので、このような問題が出てくるものと考えられる。

「ねらい・内容」に関する記述を見ると、親のニーズと園側のねらいの間にずれや差があるということが問題としてあげられていた。このことは、内容の組み立てや充実させていく援助をどのようにするかといった課題に結びついている。支援活動をするにあたっての園側のねらいをもちながらも、親の参加姿勢や親たちの交流なども考慮しながら検討している姿が見えてくる。内容については、ねらいを親子の遊びに焦点をあてるのか、または、親同士の交流に焦点をあててサロンの場を提供して支援活動とするのか。そのあたりが考慮すべき点としてあげられている。いずれにしても、利用者のニーズは何かということを探りながら、悩みながら実践している様子が窺えるのである。

仙台市外の公立幼稚園から出された問題点と課題についても、「条件」整備の問題がもっとも多かった。そのうちの半数は担当者に関する記述であり、確保されないと継続は難しいという意見であった。その他複数あった意見は、参加者募集に関する項目と困難さを述べる項目にあった。全体的に見ると、園の側で企画している内容や方法の改善等に踏み込む以前に、いろいろな制限を感じていることが垣間見れる。これらの限界を感じる気持ちや実施上の担当者や体制の問題を解決していくことが、支援活動を発展させていく場合にはまず必要であるということであろう。

仙台市外の私立幼稚園であげられている問題点と課題の結果を巡ってはどうかだろうか。「条件」についての記述が多いのは、市内私立と市外公立の幼稚園と同じであった。ただ場所の問題をあげている比率が、市内の私立幼稚園より高いところが特徴だと思われる。内容の組み立てや充実度、参加姿勢についてもそれぞれ4園があげていた。ここから読み取れることは、地域子育て支援をなんとかやらなければならないというある種の危機感を持っているのではないかということである。支援活動は別のところでやってほしいという意見が一つもないことも、これを裏付けていると言えるだろう。私立幼稚園の状況からすると、少子化を受けて毎年の園児募集は、都市部でも困難であり、郡部ではなおさらである。次年度の自分たちの待遇にも直接かかってくる問題である。従って、地域の未就園児に対する働きかけや支援活動を有効に生かす必要性を感じていることは、十分に窺い知れるのである。

2. 幼稚園での地域子育て支援活動についての意見の結果を巡って

地域子育て支援活動についての意見からどのようなことが読み取れるだろうか。そして、今後幼稚園の特色を生かした地域子育て支援の在り方について、どのような示唆を得られるだろうか。さらに考察を進めたい。

支援活動をしている幼稚園からの意見の中で、「継続したいこと」については9園から意見が出ていた。これらは、現在もある一定の評価を得ており、好評につながっているということだろう。今後の子育て支援の在り方を考えるときの明るい糸口になっていると言える。同時に、この継続したいことがらをさらにどう資源化していくか、どのように関係する人々のものにしていくのか、今後の取り組みにかかっているとも言えるだろう。

「現状」に困難を感じている回答が10あった。しかし、同程度の割合で、好評な内容についても記述されていることに注目したい。困難を感じながらも、地域の子育て支援活動によって得る喜びも少なくないということではないだろうか。

「今後どうしたいか」については、合わせて14の回答が寄せられた。様々な新しいアイデアも生まれていることが分かる。今後の成果に期待できるということであろう。

「その他の意見」には、批判的な意見もあるけれども、どちらかというとも必要性を感じており、条件さえ整えば実現に向かうものが多いと考えられる。これまでの経験を生かし、また、幼稚園相互の経験を分かち合いながら、他機関との連携の中で、さらに地域の実情にあった子育て支援がなされていくものと考えられる。そのためにも、行政からの援助や情報の提供や交換がさらに必要なのではないだろうか。

支援活動をしていない園からの意見はどうかだろうか。まず、子育て支援活動をしていない理由というものもあるということである。「地域の状況」の結果からも明らかのように、市町村が支援センターを立ち上げたり、公民館や保健福祉課で別途子育て支援を行っているという回答した園が10園であった。つまり、その上になお幼稚園で支援活動を行う役割は、特に課せられていないという理解である。

しかし、支援活動が行われない理由はそれだけではないことも明らかである。「現状」を見れば、実際に支援活動を始めようとしても、困難さの故に実現に至っていないという現状も片方にある。困難さとは、人や財政の問題、体制や規模の問題など様々である。これらが解決されていくとき、各園の物的・人的資源の生かされた支援活動が実現していくことだろう。

3. まとめ

昨今、地域によっては独立型の子育て支援センターを置いている市町村も出てきた。それは、地域の親子にとって有難いことであるに違いない。しかし、同時に、幼児期の子どもたちが毎日集団で生活している幼稚園や保育所には、センターとはまた違った魅力があると言えないだろうか。保育の現場には、保育者たちが複数いる。そして、子どもたちとの生活や遊び、すなわち保育を見ることが可能である。様々な保育者たちと気軽に関われる機会もあるだろう。支援センターの役割と幼稚園、保育所のセンター的な役割に違いがあってもよいのであって、センターがあるから幼稚園のセンター的な役割がなくなるという問題ではないだろう。子育てセンターにも幼稚園、保育所にもそれぞれ子育て支援の役割があるのではないだろうか。

母親たちの側から見た場合も、いろいろな所に支援を求める窓口があると、相談したり関わりやすいと思われる。子育て支援に関する窓口が一つしかないというのでは、様々なニーズに対する十分な対応ができるとは言い難い。どの窓口を通して関わりを始めるのか、それを選ぶのは親たちであって、選択肢は多いほど望ましいと言えるだろう。大切なことは、幼稚園や保育所、支援センターや行政など子育てに関わるすべての機関が、共通の理解のもとに連携・協力し、どのような体制を組み、相互に話し合い、役割を担い合っていくかなのである。

従って、地域子育て支援活動については、まずはやれるところから各部署が始めることではないだろうか。幼稚園や保育所にある人や物の資源は豊富である。それらを活用していくときに、地域に対する貢献が可能になるに違いない。

<文 献>

- 1) 杉山弘子・東義也・石田一彦・佐藤陽子「宮城県における子育て支援の実態（１）—保育所における地域子育て支援活動—」『尚絅学院大学紀要』第52集、pp.29-42、2006
- 2) 東義也・杉山弘子・佐藤陽子・石田一彦「宮城県における子育て支援の実態（２）—幼稚園における地域子育て支援活動—」『尚絅学院大学紀要』第52集、pp.43-52、2006

<謝 辞>

調査にご協力くださいました宮城県内の幼稚園のみなさまに深く感謝申し上げます。

<付 記>

本稿で分析の対象とした質問紙調査は、筆者らと本学保育科の森彬教授の共同研究として実施したものであることを付記いたします。

